



大谷石研究会が、宇都宮市より「景観整備機構」の指定を受け、街並みの景観や街道筋の石蔵集落の調査、保存運動に對して「お墨付き」をいただき、行政と協力しながら活動することになった。

これは、私たち大谷石研究会が発足以来10数年の間に「大谷石百選」の写真集を発刊するなど、大谷石の産業や大谷石建築の文化に光を当て、「宇都宮のブランド」として常に情報発信してきたたまものと思っている。

今回、私たちは「石蔵

地論 26

2013
10

面を測定したり、石の種類・構造を調べたり、ヒアリング調査を行つたりした。西根の住民の方には全面的に協力してもらひ、大変感謝している。

集積集落調査グループ」を結成し、宇都宮大学の安森研究室と協働で、最初の調査対象として「徳次郎町西根地区」を選んだ。ここは、宇都宮市内

住民の方々は石蔵や石造りの家に誇りと愛着を持っている、それが今日までこのすばらしい景観が守られているゆえんであろうと思っている。こ

いと願っている。そのために私たちは順次、調査を行うなど地元のみなさんや行政といっしょにでることを考えていければと思っている。

今春、大谷石研究会主催で、「石の街うつのみや・大谷石建築めぐり」のバスツアーを開催したところ、25人の定員に50人を超える申し込みがあり、関心の高さに驚いた。

今後とも

石の街の景観を守れ

ぜひこのようなツアーやを継続して

でも特に石蔵が集積した集落として知られ、同じ凝灰岩でも大谷石とは異なる独特の風合いを持つ「徳次郎石」を多く使つてている。

私たちも昨年秋、総勢17人のメンバーで1軒1軒を回り、平面や立てている。

田原街道の上田原地区、旧栃木街道の西川田地区、白沢街道の竹林地区など実に質の高い石蔵の集積地がある。ぜひども松が峰教会や聖ヨハネ

ほしいという意見が数多く寄せられ、うれしい限りである。今秋には新たな企画を催したいと計画を練っている。

私たち市民にとって、近年になって「ブランド化された「宇都宮餃子」やジャズ、カクテル以上に宇都宮ブランドとして守り続けてきた「大谷石の文化」を大きく育て、また磨き上げていくこと。ギヨーザやジャズなどのコラボレーションを開することで国内のどこにもない「石の街・宇都宮」を目指していきたい

NPO法人大谷石研究会副理事長

塩田 潔 (67)

芳賀町出身。武藏工業大卒。NPO法人大谷石研究会副理事長。シオダ建築デザイン事務所代表取締役。推進機構歴史的建物活用委員会にて石蔵などの活用策に取り組む。大谷石研究会では市内の石蔵集積集落の調査などを先導。

もこのような集落が今後とも末永く保存され、修景され、地元の人たちに日本一の竹林にも新鮮な感動をしていただいた

ようだ。市内には石蔵のレストランやギャラリーがあり、大谷には露天掘りの採掘場や屏風岩の石蔵、かやぶきの家、さらには再開された大谷資料館などが魅力的な観光スポットが数多く存在している。